

令和 6 年5月10日

学校名 鈴鹿市立加佐登小学校
学校長名 山 中 喜 宏

令和6年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	どの子ども「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる算数科教育 ～学び合いのある授業を目指して～
教科・領域	算数科

2 主題設定の理由

本校は4年前より研究教科を算数、研究主題を「どの子ども『分かる喜び』『学ぶ楽しさ』が味わえる算数科教育」とし、研究を進めてきた。「分かる喜び」とは、初めは分からなくてもだんだんと学習が分かっていく喜びである。「どういうこと?」「ああ、そういうことか。」と児童が実感できるように、主に ICT 機器を活用した教材開発に力を入れてきた。「学ぶ楽しさ」とは、話し合い活動の中で多様な考えを知ることができた、自分の考えに自信が持てた、友だちと協力したら課題が解決できたといった楽しさである。自分の考えをもつ場面と友だちと考えを交流する場面を設け、楽しさを感じられる場面設定を行ってきた。

昨年度は、研究の副題を「ICT 機器を用いた学び合いのある授業づくり」と設定し、ペア・グループ・全体でといった学び合いの場面で、どのように ICT を活用すると主題に迫ることができるのかを模索した一年であった。成果としては以下の点が挙げられる。

1つ目は、教科書の D マークをつかって、ドット●を自由に動かせるよさを活用できた。考えたことをすぐに試すことができる良さがあった。これを、ペアで交流し合うことで自信をもって全体へ自分の考えを広げることができた。

2つ目は、自分の考えた意見をオクリンクで写真にとることで思考の流れを記録することができた。生活班で交流し合い、さらにもっと違った答えを求めようと班で考えることができた。ICT 機器の活用と実物の三角定規の両方を準備し活用することで、子ども達が考えやすいほう、使いやすいほうを選んで活用し、考えを深め、学び合うことができた。視覚でとらえる ICT 機器と実際に手で触って、試行錯誤することのできる三角定規の実物の両方を準備することは子どもの思考を深めることに効果があり、大切であった。

3つ目は、作図方法を多くの児童が確認する場面には動画視聴が有効であることがわかった。また、思考の位置情報確認ジャムボードを使用し、子ども一人ひとりの状態を見える化した。教師が子どもの状況をつかむために有効な教科・単元があることを確かめることができた。

4つ目は、算数アンケートで4・5・6年どの学年も、わからなかった問題が分かるようになった理由として「友達の説明を聞くから」の回答が大幅にアップしている。5・6年生は「先生の説明を聞くこと」と「友達の説明を聞くこと」がほぼ同じくらいの割合になっている。4年生は、4月よりも「友達の説明を聞くから」の回答の割合がアップしている。

反面、課題として、グループ学習やペア学習を取り入れることが目的になってしまったため、普段取り組んでいないグループ学習やペア学習に突然取り組みうまく機能しなかったり、話し合いが停滞してしまったりといった場面も見られた。また、ICT 機器を用いることに限定してしまったため、自分の考えを表現する方法や授業展開が制限されてしまったのではないかといった反省もあった。さらに、授業の学び合いの時間がのびてしまって、振り返りの時間がとれなかった。各教員のめあてのとらえ方が様々であり、設定していためあてが活動目的になっているものが多く、1 時間の授業で何ができるようになったかという到達目的になっておらず、かえって子ども達にはわかりにくかったのではないかといった意見もあった。

今年度は、副題を「学び合いのある授業づくりを目指して」にする。昨年度に引き続き、1 単位時間の中で子ども達同士が活動したり、話し合ったりしていく「学び合い」のある授業に取り組んでいきたい。重点項目として3つを考えている。

①目的と結びついた学び合いの学習形態を考える

自力解決→グループ学習（ペア学習）の形に縛られず、児童の様子や目的に合わせて形態を選べるようにしたい。協力して問題を解決することが課題であれば、自力解決する場面をなくしグループで一つの考えにたどりつくような形態を選ぶであろう。また、既習事項を基に自力解決の場面ではあるが、自分の考えをもちにくい場合は、隣の児童に聞いて見つけ合うといったものもあるだろう。もちろん全体で一斉に、比較や分類をしたり、整理したり確認したりするといった学び合いもあると考えられる。振り返りをペアで説明し合い、確認するといったことも考えられる。目的に合わせて適時、適切な形態をとって「分かる喜び」や「学ぶ楽しさ」が感じられるようにしていきたい。当然のことながら子ども達が考える際には、具体物や半具体物、表やグラフ、数直線図やワークシート、ICT などを使いながら考えることができるよう、手立てをとっていく。学び合いを大切にするという理念を共有しながら取り組んでいきたい。

②振り返りの工夫と充実（適用問題）

昨年度の校内研修の反省の中で、学び合いを行う授業の中で、児童が「分かるようになった」と答えていたが、家に帰ってもう一度同じ課題に取り組むと解けていなかったり、テストでの定着度が低かったりすることが課題としてあがっていた。

めあてに対して「今日は何を学んだのか?」「(授業によって)どこまでできるようになったのか?」を児童が実感することはとても大事なことである。1 時間の授業の中で、学習したことを児童に振り返らせる時間や機会、定着させるための適用問題に取り組む時間や機会を確保する工夫を行い、その日の授業で学習した内容をその日のうちに(授業内や家庭学習で)振り返り、復習することで定着を目指していきたい。

そのために授業の振り返り方法や適用問題の難易度、適用問題への取り組ませ方等、工夫や授業の改善が必要と考える。

また、めあてに対する振り返りについては、できる限り子ども自身で到達度が分かるような手だて(振り返りプリント など)があるとよいと思われる。みんなで検討していきたい。

③授業改善のための基盤づくり

自分を表現せず黙っているのは学び合いにならない。そのため、わからないことや困ったことがあったら安心して「わからない」といえる学級づくりが基盤にある。教科の学習を通して人間関係作りにも取り組めると考えている。更に、自分の考えにだけに固執せず友達の言葉や考えに耳を傾け

て聴くといった人と折り合いをつける能力の育成も大きくかかわってくる。

算数科において、具体物・半具体物、ICT 機器といったものを活用しながら、「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を感じてほしい。

以上の重点項目に取り組みながら研究に取り組んでいきたい。

検証としては、昨年度に引き続き年 2 回の算数アンケート、児童アンケート、研究授業後の反省会での話し合いで確認していきたい。

単位時間における指導過程

(授業デザイン)

段階	各段階の内容
つかむ	1 問題提示・・・身近な問題、生活の中でありそうな問題、興味をもてる問題 2 めあての提示・・・「～できるようになる」「～説明する」
考える・学び合い	(3 見通し) 「答え」「解き方」「考え方」など既習事項と関連付けて見通しをもつ。 4 自力解決・・・自分で考える。(自分はここまではわかった・できた。でもここからは・・・? も OK) 友達と伝えあってもよい。 考えていることを伝え合ってもよい。 いきなり、グループで考えるといった学習活動もあり。 具体物や半具体物、図や表、数直線図などを使って考える。 ICT を使って考える。 ワークシートを使って考える。 ※ 教師は、考える手段を提示していく。 5 学び合い・・・ペア、グループ、全体のいずれかでの主体的・対話的な学び合い。 比較・類似・より良いものに気づいたり見つけたりする。
振り返り	6 まとめる・・・本時の解き方を確認する。ここにグループやペア学習を入れることもある。 適用問題 (振り返りとしてもよい)・・・本時の内容と同じ程度の問題を解き、理解状況と確認をする。 グループやペアでの教え合いも認めていきたい。 7 振り返り・・・言葉や文、図などを使ってする。(振り返りの視点を参考に)

〈ふりかえりの視点〉

- ア 今日の学習で、わかったこと・わからなかったこと
- イ 授業の最初の自分と今の自分を比べて、変わったところ
(考え方や問題の解き方など)
- ウ 友達の考えを聞いて、なるほどと思ったところや感じたこと
- エ 今日の学習で便利だと思ったこと
- オ かん(感動したこと、がんばったこと、友達のよさ、どんな考えを使ったのか など)

学び合いの仕方

1 出し合う

- ・○○をつかって考えました。
- ・このように、考えました。
- ・答えは、○○になりました。
- ・ここからが、わからないんだけど・・・？
- ・どんな方法がいいかな？
- ・もしかしたら。こうかな？

2 交流する

- ・ここが同じです。
- ・ここはちがうなあ。
- ・ここまでは、似ているなあ。
- ・この時、このように考えたよ。
- ・つまり、こういうことかなあ。
- ・こうすると、いいよ。
- ・こうすると、もっとわかりやすいよ。
- ・○○さんは、こう考えたってことだね。

3 研究構想図

学校教育目標 「思いやりをもち、自ら考え、意欲的に取り組む子の育成」

めざす学校像 安心して過ごせる学校「今日が楽しく、明日が待たれる学校」
確かな学力・豊かな人間性・健やかな身体を育む学校

研究主題 どの子ども「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる算数科教育
～学び合いのある授業づくりを目指して～

めざす子ども像

	低学年	中学年	高学年
自ら学び (主体的)	・基本的な言葉や数・式や、知識をもとに自分なりの考えがもてる子	・言葉や数・式・図・表・グラフなどを活用して自分の考えをもてる子	・言葉や数・式・図・表・グラフや既習事項を活用して自分の考えをもてる子
他者から学び (対話的)	・自分の考えを発表し、人の話を聴くことができる子	・自分の考えを発表し、人の考えと比べながら聴くことができる子	・算数的用語を用いて自分の考えを説明したり、人の考え方と比べたりしながら聴くことができる子
他者と学ぶ (深い学び)	・聴き合うことを通して、相手と自分の考えをつなげる子	・聴き合うことを通して、多様な考えをつなげ、解決方法や表現方法を見いだす子	・聴き合うことを通して、多様な考えをつなげ、より質の高い解決方法や表現方法を見いだす子

主体的・対話的な深い学び

具体的な取組

(1)どの子ども「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる授業づくり

- ・興味関心をひく導入、問題の提示
- ・目的と結びついた学び合いの形態(ペアやグループの活用)
- ・「振り返りの工夫と充実(適用問題)」

(3)「自分の思いを出し、認め合える」学級集団づくり(人権部との連携)

- ・「分からない」と言える雰囲気づくり
- ・相手の意見を尊重できる姿勢の育成
- ・友だちが受け止めやすい言葉を選ぶ力の育成
- ・あきらめずに取り組む力の育成

(2)「学ぶ楽しさ」が実感できる環境づくり

- ・学習規律の共通理解・徹底
- ・教室の話型の揭示・活用
- ・各学年の教育活動の様子の揭示
- ・算数クイズの揭示
- ・自主学習の啓発

(4)みんなが同じ方向を向かい、チーム力のある校内研修

- ・年間を通しての、研修テーマの意識づけ
- ・全員で改善点を探る事後検討会をはじめとする校内研修の実施
- ・教師自身も楽しく学べる校内研修の充実→自主研修会、授業公開
- ・家庭学習の充実

4 日常的な取り組み

(1) 研究授業について

- ・算数科の全体提案授業3学年（低中高各1本）、もう一方の学年は、人権の授業提案とする。3年生はICT活用の算数科の授業とする。低学年の一方は公開授業とする。
- ・1学期から算数科の研究授業を入れる。（1学期1本6月か7月。2学期2本10月か11月。）3学期には来年度に向けてまとめていけるようにする。
- ・特別支援学級は、児童の様子をつかんでもらうことを目的として、1学期（5月または6月）に公開授業をする。指導案は略案とする。（単元名・目標・本時の活動・各児童の本時の目標・本時の学習）
- ・子ども達同士での学び合いに重点を置く。グループ学習やペア学習をどういった目的でどの場面で取り入れていくのか考えていく。全体では、グループやペアの意見をどうつないでいくのか、教師はなんと言って子どもに返していくのか、子どもの言葉に対応できる力を磨きたい。
- ・事前に授業に取り組み、学年部会で指導案・本時について検討すること。指導案配布は、授業日の前の週の金曜日17時までとし、それぞれが読み込んで研修会に参加できるようにする。事後検討会をもつ。（事後検討会には教育指導課より講師を招く。）
- ・事後検討会は司会を研修長・副研修長が行い、焦点を絞って研修を進めていけるようにする。Jamboardに打ち込み（又は付箋に意見を書いて？）意見交換。授業者に成果や課題を伝えることとする。また、自分だったら…という視点での意見、自分自身の課題と学びを常に振り返ることのできる研修会にしていく。
- ・全体提案する教員以外にも、全員が一度は授業公開を行う。（実施日を事前に知らせる。事前研は全体研の指導案でよい。）
- ・各自でしっかりと授業記録をとる。
- ・見回りはしない。ビデオ撮影は必要な人が各自で行う。

(2) 校内研修

- ・4年生以上は、年に2回、算数アンケートを実施。分析して児童の実態をつかむ。
- ・各担任で4月早い段階でレディネステストに取り組みクラスの児童の学習定着度を把握する。
- ・夏期研修では、鈴鹿市が主催する算数科の研修会に全員が参加していく。全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの問題に教師が取り組んだり結果分析したりする。夏期研修還流会等を夏季休暇中に行っていく。
- ・学期に1回は自主研修会を行うこととし、様々な分野の研修をする機会を作っていく。各自が得意分野の紹介をしたり、専門分野の日ごろの取り組みを紹介したりする。
- ・「めあて」の作り方、「ふりかえり」方法の工夫、45分授業のタイムマネジメントについて考える。

(3) 朝のモジュールタイム（毎週月・木・金曜日）

- ・月・木・金曜日の朝のモジュールタイム15分（8：25～8：40）を、国語1コマとしてカウントする。（3～6年）

- ・ 1、2 年は朝の読書や発達段階に適した学習を行う。
- ・ 市教委作成の読む書くワークシートに取り組む。5 月ぐらいから取り組めるとよい。
- ・ 8：25 には、どのクラスも確実に静かに朝のモジュールタイムが始められるようにする。

<朝の読書>

- ・ マンガ（学習マンガはよい）やミッケは除く。

（4）補充学習（毎週火曜日）※ボランティアなし

- ・ 算数の補充学習を行う。
- ・ 四則計算の計算プリントや応用問題や文章題のプリントに取り組む。
（3～6 年）整数の計算の完成は 4 年生が目安となっている。
- ・ 個別学習の充実にも活用していく。（九九、繰り下がりなど）
- ・ 各学年で何をしていくのか報告をしてもらう。

（5）朝の読み聞かせ（毎週水曜日）※ボランティアあり（希望制）

- ・ 学年で相談して、来ていただく日や回数を決める。

（6）家庭学習について

- ・ 家庭学習 3 点セット（音読・計算・漢字）をどのクラスでも行う。学年で量をそろえる。
できるだけその日に学習した内容を出すようにする。
- ・ 4 年生から、少しずつ自主学習も行っていく。学年で出し方を統一して行っていく。3 年生は、児童の実態に応じて、取り組みを開始する。
- ・ 実態に応じて、日記、プリント等に代えることもある。
- ・ 音読の宿題には、国語の教科書だけでなく社会や道德などの教科書の音読を計画的に入れていく。読書の宿題もあってもよい。
- ・ 宿題は、なるべくその日のうちに目を通し、児童に返却する。
- ・ 自主学習は、児童の意欲を高めるための工夫（コメント紹介など）をする。
- ・ 学習時間は「10 分×学年＋10 分」となるようにし、学年に応じて、自主学習を増やしていく。

※何度か学年で話し合う機会を持ち、一番児童に力がつく方法を考えていく。

- ・ **chromebook** を週に 1～3 回くらい持ち帰り、3 点セット 4 点セットの代わりに家庭学習として課題を出す。ただし、学年では大体揃えたい。週 1 回～それ以上

（7）年間学習指導計画の確認

- ・ 昨年度末に作った年間学習指導計画を 4 月中に見直し、年間の計画を立てる。
研究授業をいつ頃、どの単元で行うかも、合わせて見通しを立てておく。
- ・ 新担任は 4 月中に新しく学習指導計画を加筆修正をすること。

（8）学習のきまり

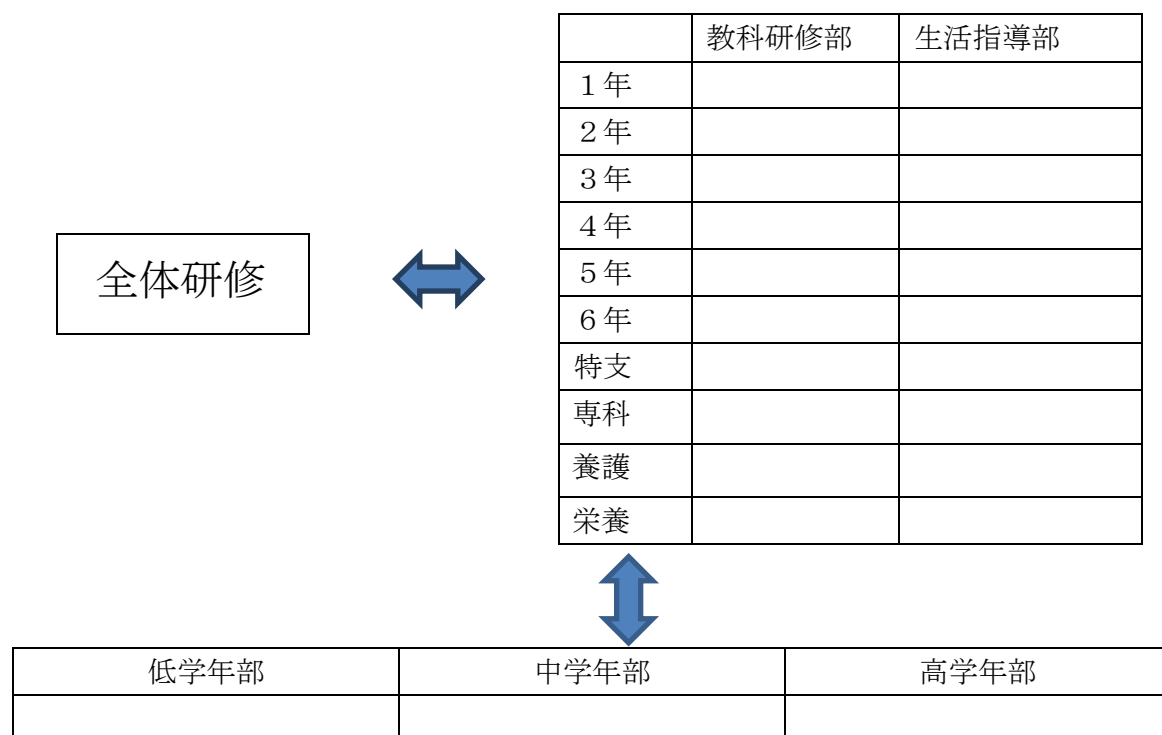
- ・ 4 月に加佐登小学校の学習のきまり（特に持ち物）を配布し、全校での統一をはかる。

→児童全員に配布し、4月当初に学級指導をする。9月と1月には持ち物チェックと共にきまりの確認をする。

→持ち物チェックをし、意識づけていく。(持ち物・学習規律チェック表の活用を！)

- ・4年生以上は赤ペンを使ってもよい。どんなものを持つか、不必要な色は持っていないなど指導はしていく。

5 研究組織



6 その他

(1) 校内研修

- ・研究授業の運営全般・日程調整・講師の先生との打ち合わせ
- ・研修に関する校内研修会の計画
- ・指導案の提案
- ・教育委員会提出文書、派遣文書等の作成
- ・研修担当者会議への参加

(2) 自主研修会

- ・自主研修会、授業公開の企画・運営（ICTの活用、各教科、自主学習の取り組み方など）
- ・各自が得意なことや普段授業の中で取り組んでいることなどを紹介しあう形で行う。
- ・わかりやすいめあて、ふりかえりの工夫など

(3) 学力向上

- ・算数アンケートの作成・提案、結果分析

- ・全国学力学習状況調査、みえスタディチェックの連絡調整・準備、分析・検討
- ・成果と課題から対策を考え、推進していく。
- ・学力向上担当者会議への参加
- ・「読む書くワークシート」の準備と配布

(4) 家庭学習・学習の決まり

- ・火曜日の補充学習の集計
- ・家庭学習の約束の見直し・配布、年度途中の取り組み
- ・学習のきまりの見直し・配布、年度途中の取り組み

(5) 学習支援ボランティア

- ・ボランティア要請の声掛けと取りまとめ
- ・ボランティアとの連絡調整（地域コーディネーター村上さんへの依頼）
- ・ボランティア集会の計画・進行

(6) 教育環境

- ・学習規律について
- ・話型の活用、全クラスの教室に掲示、活用の啓発
- ・年度初めと終わりの教具の管理
- ・算数クイズの掲示の提案、推進

(7) 図書館教育

- ・読み聞かせボランティアと連絡し、水曜日の読み聞かせを進める。（希望制）
- ・読書活動の推進
- ・図書館運営

(8) キャリア教育

- ・キャリアパスポートの推進
- ・キャリア教育に含まれる教育活動の提案（すずか夢工房の窓口）
- ・年間計画の取りまとめ

(9) ICT 部会

- ・ICT 担当連絡者会議や校区内の連絡会など 校外に出る仕事
（校区でのリーダー 小学校3つの内1つがリーダーになる。年に3回程度ある。）
- ・充電コードやPCなどの修理及び破損等の備品管理や台帳管理の仕事
- ・キャリアパスポート関係
- ・ICT 機器の活用について学校全体の方向性を計画提案する仕事
（研修長と相談しながら実施）
- ・ICT の効果的な使用方法について自主研修会にて紹介
- ・岡部さんとの連携 周知集約の仕事

- ・児童名簿の管理
- ・デジタル教科書の設定
- ・L-Gate やめくびつとの設定
- ・年度当初の新しく来た先生の chromebook 設定
- ・ICT 情報モラル出前授業の呼びかけ

(10) 鈴教研

- ・班研修 原則第2水曜日（4，7，9，2，3月は行わない。） 名簿作成
- ・鈴教研についての連絡 教育研究集会の参加者の取りまとめ
- ・鈴教研発表に向けての準備、連絡調整

(11) 学習年間指導計画

- ・学習年間指導計画の提案、取りまとめ

(12) 評価

- ・あゆみ・指導要録の評価基準、記入事項記入方法の提案
- ・保護者への連絡文

7 年間研修計画

一学期	4月	職員会議（今年度の研修 主題・目的について） 校内研修会（今年度の研修・指導年間計画・研究授業・指導案の書き方・研究授業の報告書の書き方について）
	5月	職員会議（算数アンケート結果および分析、学習・読み聞かせボランティア、朝の補充学習について） 自主研修会、みえスタ・学調の採点と分析、特別支援学級公開授業
	6月	学年研修（教材研究・指導計画・指導案検討） 3年 全体研究授業（算数科）（事後検討会） 6年 人権全体研究授業（事後検討会）
	7月	職員会議（あゆみのつけ方）
	8月	校内研修会 （教材研究・指導計画・指導案検討、全国学力学習状況調査結果分析など） ※随時、学年研修や自主研修会を行う。

一 学 期	10月 2年 全体研究授業（事後検討会） 11月 4年 人権全体研究授業（事後検討会） 12月 5年 全体研究授業（事後検討会） 9月～12月 公開授業 自主研修会 1年間の反省 ※随時、学年研修を行う。
三 学 期	1月 学年研修・研修部会（今年度の反省とまとめ） 自主研修会 みえスタ実施、採点と結果分析 2月 校内研修会（今年度研修の成果と課題） 3月 校内研修会（来年度の研修に向けて）